長浜曳山まつり
Nagahama Hikiyama Festival

―振付・太夫・三味線―
ユネスコ無形文化遺産「長浜曳山祭」の三役養成

三役修業塾（さんやくしゅぎょうじゅく）

長浜曳山祭の子ども歌舞伎にとって欠くことのできない「三役」。三役とは「振付」「太夫」「三味線」のことを指します。定期発表会では、塾生の修業の成果を披露します。

義太夫部門

振付部門

令和元年（前期）定期発表会

【義太夫部門】

◆七月二十一日(日)

一、増補生写朝顔話　宿屋の段
太夫　竹本 美帆賀太夫（中橋恵美子）　三味線　豊澤 楓賀（七里八須子）

二、絵本太功記十段目 尼ケ崎の段（前～中）
太夫　竹本 利賀太夫（山口利昭）　三味線　千與龍（嶋崎正明）

〈義太夫指導〉豊澤 千賀龍　豊澤 賀 祝

【振付部門】ゆかた会

◆八月二十五日(日)

碁太平記白石噺 新吉原揚屋の場

《義太夫（掛合）》
傾城　宮城野：岩井 小紫八（七里八須子）　太夫　竹本 賀桐太夫（片桐秀樹）
妹　信夫：伊藤 麻里
新造　宮里：平田 富記子
新造　宮芝：山口 奏
遣り手　お政：中橋 恵美子
大黒屋　惣六：堤 園子
三味線　豊澤 湊祝（島上拓磨）　豊澤 賀祝（下村浩司）　竹本 甚太夫（桐山惠行）

〈振付指導〉岩井 小紫

開演時間	午後二時より開演
場所	長浜市曳山博物館・伝承スタジオ
参加費	入場無料・申し込み不要

《主催》公益財団法人長浜曳山文化協会　滋賀県長浜市元浜町14番8号　長浜市曳山博物館　☎0749-65-3300

増補生写朝顔話　宿屋の段

秋月家の娘深雪は宇治川の蛍狩りで出会い、契りを交わした宮城阿曽次郎という侍を忘れることができず、しかも、駒沢次郎左衛門との縁談が持ち上がる。阿曽次郎を恋い慕う深雪は縁談に応じず家を出る。阿曽次郎を思い、泣く日々が続くうちに深雪は失明する。盲目となった深雪は朝顔という女芸人となっている。駒沢と同僚で本心では駒沢をなきものしようと企む岩代が島田の宿に立ち寄る。駒沢が朝顔を呼ぶよう宿の主人である徳右衛門に頼み、深雪が駒沢らのもとにやってくる。深雪は朝顔の唄を歌い、身の上話して宿を後にする。駒沢は徳右衛門に深雪にお金と眼薬、そして朝顔の唄の書かれた扇を渡すように頼み、宿を出立する。深雪は気にかかることがあり、宿に戻る。徳右衛門は駒沢から預かったお金、目薬、扇を深雪に渡す。深雪は扇に書かれていることを徳右衛門に読むように頼むとそこには朝顔の唄のほかに、駒沢次郎左衛門こと宮城阿曽次郎と書かれていた。深雪が恋焦がれていた阿曽次郎は改名していたのであったが、盲目のため気づくことができず、また、駒沢も岩代がいるため夫とは名乗ることができなかったのである。居ても立ってもいられない深雪は大雨のなか駒沢を追いかけて、大井川へ向かう。

絵本太功記十段目尼ケ崎の段

小田春永（織田信長）を討った武智光秀（明智光秀）は、中国から戻る真柴久吉（羽柴秀吉）を迎え討とうとしたが、あと一歩のところで久吉の家臣加藤正清（加藤清正）らによって阻まれた。（前段まで）

光秀の母皐月は倅が主君を討ったことを恥じ、尼ケ崎に隠居している。そこに九死に一生を得た久吉が旅僧となって、一夜の宿を求めて潜んでいる。また、光秀の妻操、倅十次郎の婚約者初菊も皐月のご機嫌伺いに来ている。十次郎は出陣の許しを願うため、祖母に会いに来ていた。十次郎は初菊と祝言を交わし、出陣していく。光秀は久吉がこの隠居に来ていることを知っており、仕留める機会をうかがっていた。風呂場で聞こえる物音は久吉のものと、竹鑓で物陰から突くと誤って皐月を刺してしまう。刺されて息も絶え絶えながらも、主君を討った光秀を責める。操も光秀を諌めるが、聞き入れず、武士の道を貫いたと主張する。

碁太平記白石噺 新吉原揚屋の場

江戸新吉原は昼をあざむく歓楽街。

揚屋大黒屋・惣六は、かどわされそうに成っていた田舎娘・信夫を救い店に連れて帰ってきた。奥州から来た田舎娘の方言丸出しの話を、遊女たちは面白がって聞き、なぶりものにする。

宮城野は太夫職と言う遊女の最高位につき、全盛を誇って居る。信夫の話を聞いているうちに、妹で有ることがわかり、信夫も探していた姉であったかと喜び合う。宮城野は父が無残にも殺された事を知り、驚き、癪を起す。信夫は介抱し、仇が討ちたいと訴える。

二人が仇討ちの決心をした所へ、様子を残らず聞いて居た惣六があらわれ、「曽我物語」に例え、時期を待ち十分に修練をしてから仇を討てと、姉妹をさとす。

惣六は宮城野の、年季証文と吉原大門の通行手形を与え二人を出立させる。